

2024 年度七大学戦申し合わせ事項

1. 七大学間での議論において、以下の理念を共通認識事項とする。
 - (1) 七大学が実力を十分に発揮し、勝負に徹することができるよう、公平性のある議論を行う。
 - (2) 七大学戦の持つ独自性（OP 種目・レセプション・各校の応援）を尊重し、議論を行う。
2. 七大学戦は原則として 1 日制とするが、事前に全大学の上承が得られれば、前日に種目の一部を行ってもよい。期日は、可能な限り 7 月の第 3 週または第 4 週の日曜日か土曜日とする。
3. 競技日程は原則として前大会と同様とし、変更する場合は、遅くとも開催日の 1 ヶ月前までに各大学に連絡し、七大学全ての承認を得ること。また、その後、運営の都合上、競技日程をやむを得ず変更する場合も、七大学全ての承認を得ること。
4. 女子の競技種目は 100m、400m、800m、3000m、100mH、4×100mR、走高跳、走幅跳、砲丸投、やり投の 10 種目とする。種目・得点制度の変更は申し出があるごとに話し合い、七大学全ての意見が一致する場合においてのみ行うこととする。また、原則として遅くとも実施の一年前に行われる代表者会議で決定し、それ以降の変更は行わない。
5. 女子の 400m までの種目は、当日出場する人数が 8 名を超えた場合、予選・決勝を行う。（2021 年度：7 大学の合意に基づき、女子 100mH は出場人数が 8 名を超えた場合もタイムレース決勝とした。また女子 400m について、エントリー人数が 9 名であったが予選は行わず決勝のみとした。2024 年度：7 大学の合意に基づき、女子 400m はタイムレース決勝とした。）決勝進出者は 2 組 3 着+2 で決定する。800m 以上の種目は予選を行わない。
6. 女子 800m は各レーンに同じ大学の選手が 2 人ずつ入り最初の 100m をセパレート方式で実施する。
7. 決定事項引き継ぎのため、代表者会議には次期代表者を必ず出席させること。また、女子の代表者会議を男子と同じ場に設け、必ず女子代表者および次期代表者が出席する。但し、女子部員が不在の場合はこの限りではない。
8. 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は従来の方式に準じ、エントリー用紙に希望する開始高さを記入しそれを基に代表者会議において決定する。
9. リレー種目のレーン順は、代表者会議の席上で抽選、決定する。
10. 予選通過のプラス 2 名の決定は記録を優先し、同記録の場合は着順によって決定する。さらに同着順の場合のみ抽選を行う。

11. 1 種目の人数枠は、男子が各種目 3 名、補欠 1 名まで、女子が各種目 2 名、補欠 1 名までとする。
12. トラック競技予選の組分けについては、原則として記録順に均等に割り振った上、一つの組に同一大学の選手が 2 名以上重ならないように調整し、各組の条件に差をつけないこと。トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順の決定も公正を期して行う。
13. 代表者会議における申し合わせ事項の変更は全大学承認の上とする。
14. 選手の変更は、大会前の代表者会議に申し出た場合に限り、補欠との入替を認める。
15. アスリートビブスは、北海道大学 101~199、1001~1099、東北大学 201~299、2001~2099、東京大学 301~399、3001~3099、名古屋大学 401~499、4001~4099、京都大学 501~599、5001~5099、大阪大学 601~699、6001~6099、九州大学 701~799、7001~7099、以上のように固定制とし、男子は白地に黒文字で、女子は白地に朱文字で、各大学で大会前に準備する。ただし、3000m、3000mSC、5000m、5000mW に関しては専用のナンバーカードを着用する。このアスリートビブスは主管校が準備する。
16. 申し合わせ事項に不備、遺漏があれば、代表者会議で協議の上、訂正、追加する。
17. 代表者会議は大会前に行うこととし、その際に次年度申し合わせ事項を決定する。
18. 対校得点は、男子が各種目とも 1 位 6 点、2 位 5 点、3 位 4 点、4 位 3 点、5 位 2 点、6 位 1 点とする。
女子は各種目とも 1 位 4 点、2 位 3 点、3 位 2 点、4 位 1 点とする。
19. 対校得点に関して、同点の場合は優勝種目の数で、それで決定できない場合は 2 位入賞者数で、以下同様に 3 位入賞者数、…で順位を決定。
20. オープン競技の開催、非開催、内容については主管校が決定する。
21. やむなく当日に棄権する場合には、必ず棄権届を提出すること。
22. エントリーについて、締切後の選手変更は一切認めない。万が一、変更があった場合には、当該選手の出場を認めない。
23. リレーメンバーについて、対校の部に出場する選手で 2 名に限り、事前にエントリーしていなくてもメンバーと交代することができる。また、対校の部に補欠としてエントリーされている者は、変更で正選手となった場合に、リレーメンバーと交代することが出来る。
24. 七大戦本戦への参加は、学部 4 年生以下の者に限る。学年は入学学年に（在籍年数－1）を加えたものとする。ただし、特例によりそれ以外の者でも出場が認められる場合もある。【特例措置】2017 年度：北大で仮面浪人をした北大生 1 名の出場を認めた。（理由）仮面浪人期間は実質的に大学生活を送っていたとは言い難い。また、七大戦の時に

在籍年数は 5 年となるが、部内での位置は 4 年生であったから。2021 年度：留学を理由に留年した選手について、 $(\text{入学学年} + \text{在籍年数} - 1) = 1 + 5 - 1 = 5$ となり 5 年生の扱いになるが、留学していた期間を含む 1 年間は部活を停止していたため本戦への出場を認めた。※この事例とその理由は参考程度に記したものであり、これが採決の根拠とはならない。今後このような特例に関しては、各代での話し合いにより自由に決定する。

25. 主管校による記録審査は不要とする。エントリーファイルに記入する資格記録は、前年度 4 月 1 日以降の最高記録とする。(※ただし 2021 年度大会に限り、資格記録は 2019 年 4 月 1 日以降の最高記録とした) エントリーファイルは、主管校の主務に送るのではなく、自校以外の六大学に送る。そして、スタートリストを作成する前に、各大学のエントリーを確認する期間を設ける。この時に、資格記録に対し指摘する場合は、指摘内容とその根拠、主将の署名が記されたファイルを作成し、それを七大学全体で共有する。実際にどの時期に、どのような方法で行うかは主管となる大学が提案する。
26. オープン、対校ともに招集漏れの場合、即刻棄権扱いとする。ただし、「複数種目出場届」を提出することにより、選手のミス以外による招集漏れを認める。また、これを提出した場合、代理人による招集を認め、この時はゼッケンの提示は必要としない。
27. 代表者会議では、申し合わせ事項については確認する程度にとどめ、レーン決めや次期幹部顔合わせなどを行うのみにする。ただし直接意見を交わしたい議題がある場合、それぞれの大学の意見を共有する時間を設ける。しかしこれは議論に決着をつけることを目的とはしない。
28. 話し合いの方法は各代に委ねるが、代表者会議以外の場、例えば LINE などで議論をしっかりと重ねることを推奨する。ただしあくまで確定は代表者会議でのみ行うものとする。